

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

町田市議会

所属:志政クラブ

〒194-8520

東京都町田市

森野 2-2-22

☎042-724-2127



双方向の情報交流

招き入れる副市長について

町田市には市長を支える副市長を 2 名置いています。その内の 1 名は東京都から招いています。そこで、その意義について尋ねました。その種の質問は当事者を前にした質問であり、町田市議会においては極めて珍しいシブアーな部類でした。

尋ねた項目は、以下の通りです。(1) 東京都から招き入れている経過について、(2) その意義について、(3) 他の方法について。

私が知っている範囲では、過去、2 名とも生え抜きの人材がその職(助役)を占めていました。前市長の最後の期に、東京都から一人の助役を招いたものでしたが、当時、市民病院の建て替え工事と、医師の確保の重要性が出ていた時代でした。

市長の答弁によると、今日、東京都から招いている理由は、優秀な人材を東京都に求めているとのことでした。さらに続けた質問に対しての答弁では、招き入れた人材が東京都に戻ってから町田市とのパイプを太く形成することより、今日の多方面の問題に対処する能力を優先しているとのことでした。

また続いて、東京都から副市長の 1 人を招くことを確定的に決めているわけではなく、他の方法もありうるとのことでした。この答弁を聞いて思うに、将来的には、国から招くことも在り得ると言う主旨にとらえました。本来は、「人口が 42 万人を超える都市として、生え抜きの人材でも副市長は十分に務まる人材も豊富であり、3000 人の職員の中から抜擢することもある」、もしくは、大阪市の例も参考にして、「幅広く、公募する」こともあるとの答弁を期待した私の質問でした。

熱海市は、初めて副市長を国から招いていました

第 3 定例議会の前に、副市長に関する質問項目を立てました。今回の質問をする前に、初めて国(経済産業省)から、30 歳代の若手官僚を副市長に招いた静岡県熱海市を訪ね、話をうかがってきました。その際、インターン生 2 名(吉原 弘晃さん、矢島見依子さん)を同行し、熱海市に出向きました。かねてから面談を依頼していた熱海市副市長の田邊国治さん、観光協会などを訪ね、お話をおうかがいするのが目的でした。感想は裏面に、この吉原さんと矢島さんがそれぞれに書きますので、比較してご覧下さい。

なお、せっかくですので、この日は十分な時間をかけ、熱海の街中と周辺を探訪しました。海岸で夜に行われた、かがり火のイベントまで鑑賞することにし、熱海を堪能しました。そのイベントでも熱海市の田邊副市長や、地域の観光協会の会長らにお会いでき、親しくお話ができたのも幸いでした。



★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> 発見動画チャンネル <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E 103-13 吉田つとむ (市議会議員)

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



インターン生と国会へ

熱海市の田邊副市長に質問

(以下はインターン生のレポートの抄文です)



田邊副市長は経済産業省の出身で、昨年7月に副市長に着任しました。まず熱海市の歴史を、図や表を使って丁寧に説明してくださいました。人口は昭和40年のピークを境に減少し、今では4割が高齢者なのだそうです。そんな中たくさんの人に熱海に来てもらえるよう、田邊さんは市の職員の意識を変えることがまず必要だと考えています。自分の地域を見つめることが大切だとおっしゃっていました。

旅館・温泉にこだわることはもちろん、ウェブサイトなどで熱海のイメージを広く発信したり、創作活動・発表会、体験プログラムなど、住む人も観光を楽しめるようなものが特に多いことが分かりました。またNPOなど外部の団体とも関わり、地域の人たちが活躍できる場をつくっています。後に訪れた「起雲閣」では、NPOのボランティアの方がガイドをしています。活動のつながりを実感しました。

(第30期研修生 矢島見依子 成城大学3年)

田邊さんにお話を聞いて

(以下はインターン生のレポートの抄文です)

田邊さんは経済産業省出身で、2011年7月から熱海市副市長に就任されました。熱海市では平成22年で既に市における65歳以上の人口の比率が38.6%となっており、また観光業も伸び悩んでいます。そういった時に、熱海市出身ではなく他の地域の出身者による、いわゆる「外の視点」が欲しいという熱海市の要望で、副市長に就任されました。

田邊さんをご自身の仕事は熱海市を「変える」仕事と仰っておられました。現場の職員の方が粛々と仕事をこなしていくことはすごく大事なことで仰っておられました。しかし、田邊さんは自分の仕事は熱海市をどのような形であれ変えていくことで、活性化していくことが仕事と仰っておられました。事実、熱海市への移住、居住を促進する「熱海時間」の創設。住民協働による観光地づくりを達成するためのNPO法人、ボランティア団体との協働といった新しい取り組みを行われていました。

私は熱海市がどのような市を目指しているか伺ってみたのですが、熱海市は、市民の方にとって町づくりを人ごとの世界から自分事にすることを目標としているということでした。確かに、今までの町づくりはどうしても一般市民にとって人ごとだったような気がします。事実、私も住んでいる市の町づくりは人ごとだと思っています。そういった人の意識を変えて市が積極的に市民を巻き込んでいくことがこれからの町づくりの形なのかな、と私は思いました。田邊さんにはとても貴重なお話を聞くことができました。(第30期研修生 吉原弘晃 東京大学大学院修士1年)

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ どうぞ、町田市政や議会に関するご要望や、ご意見をお気軽にお寄せ下さい。

ご連絡、お問い合わせは電話・FAX、メールにて。Mail : yoshidaben@gmail.com